

# 石井十次



心も満たす おくりもの

まんぷく  
TAKANABE

十次さんは言いました。

「おなかを満たれば心も満ちる」

満腹主義は今も高鍋に根付いています。

大切な人を思う気持ちを手渡して、

「まんぷく TAKANABE」は

心も満たす贈りものです。

クアー、クアー  
高鍋の町の丘の上から  
十次は夕日をながめ思った  
大きくなったら何しよう  
人のためになることで  
あればいいな



それから  
たくさん時がたち  
遠い地で  
お医者になるため  
せつせとお勉強



そんなある日、  
コンコン

誰かが戸をたたく音  
そこには親子が立っていた  
長く厳しい旅の途中、  
子どもは連れて行けません  
ポロポロ、ポロポロ

困った人はほうっておけない  
子どもは私が、  
引き受けましょう

ポロポロ



グ  
ツ

お医者はたくさんいるけれど  
親のいない子どもを  
助けられるのは自分ひとり

十次は決意した



しかし、たくさん  
大変なことがおきた  
ビュービュー、貧しさ  
カラカラ、大飢饉  
ゴゴゴゴ、大地震



カラ  
カラ

ゴ

ゴ

ゴ



親のいない  
子どもたちは  
どんどん増えた



子どもたちの  
未来につながる  
育てかたを



はたらく  
まなぶ



でも、グーグー  
おなかが空いてると  
からだは、ヨロヨロで  
心も悪くなる



柿の木だ、とっちやえ  
ブチッ、ブチッ  
ガブガブ

そこで、十次は考えた  
「満腹主義」

おながが満たされれば  
心も満たされる



パク、モグ

パク、モグ、フー

子どもたちは満足げ

おなかも心も  
いっぱい  
いっぱい  
笑顔の子どもたち

悪いおこないは  
もうしない

柿の実なんて  
もうとらない

うなずき微笑みながら  
見守る、十次だった：

ぱちぱち

ん？

あれ？

お？

ん？



あ、昔の夢か

あの日、高鍋の町の丘の上で  
思ったように、私は人のために  
なることができただろうか

そうであればいいな



そして今日、石井十次の想いは  
高鍋の町に根付いている



おかわり

